



## 婦人と子ども

第十二巻第五號

### ころもがへ

うれしきは子供の着物の軽くなりゆくことである。重くるしい厚綿布子ぬぎすて、きびくとした初袷に、男の子も女の子も、けさ一段の元氣がある。保育室の窓の外の葉櫻に反映て、青味を帯びて漲り込む五月晴よ。昨日も今日も手をひきつれては、野へ、森へ、丘へ、青葉の風に袂が軽い。走れよ、飛べよ、子供達よ。疲れて森の草に寝れば、冴えくとした葉越の空が、高く疲れを吸ふて呉れる。湧いて泉の傍へゆけば、翠を浮べて湧く眞清水が、つめたく濁きを癒して呉れる。